

令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
国立磐梯青少年交流の家 教育事業 報告書

1 趣旨

オリエンテーション合宿を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成する。また、地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

2 期日

令和5年4月28日（金）～令和6年1月27日（土）（計8日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家
福島県立猪苗代高等学校
磐梯山
磐梯山噴火記念館



4 参加者

57名（高校生57名）

5 主な活動内容

(1) 噴火災害講話・噴火実験（講義）

磐梯山噴火記念館の館長から磐梯山噴火における災害の特徴や対策についての講話を聞いた。また、ジオラマを用いた実験から、噴火した際の被害が及ぶ地域などについて学んだ。さらに災害だけではなく、噴火がもたらす自然や地形、産物などの恵みの部分についても話を聞いた。

(2) 震災講話・クロスロード（講義）

避難所運営時に実際に起きている課題や現状について聞いた。また、実際に起きた課題を題材に解決策をグループで考えて発表する活動に取り組んだ。避難所運営だけでなく、日ごろの備えが防災につながることを学んだ。

(3) HUG 実践・見学（演習）

猪苗代高校3年生の進行で参加者が実際に通っている高校の図面を用いたHUG（避難所運営ゲーム）に取り組んだ。HUGの実施後には実際に避難所運営経験のある自衛隊職員（講師）によるHUGを見学した。見学後には運営についてグループで感じたことや困ったことなどを自衛隊職員に質問することで避難所運営について考えを深めた。

6 事業の成果と課題

(1) 成果

- ・「グループで協力して解決するために工夫して活動できた」という感想から避難所運営という非日常的な課題に対しても向き合うことができていた。
- ・オリエンテーション合宿を全学年で実施したことで上級生がリーダーシップを発揮し、下級生は自身の役割を果たそうとするなど主体的に活動に取り組んでいた。
- ・各活動で積極的に話し合う姿や学び合う姿勢が見られた。

(2) 課題

- ・アンケートから「災害について再確認できた」、「災害時の行動について学んだ」など緊急時の行動など防災意識の向上が大きかった反面、郷土や自然に対する愛着を持たせることができなかった。地域の魅力を感じられるように地域で活動する方と関わる機会を増やすなどのプログラム構成にしたい。